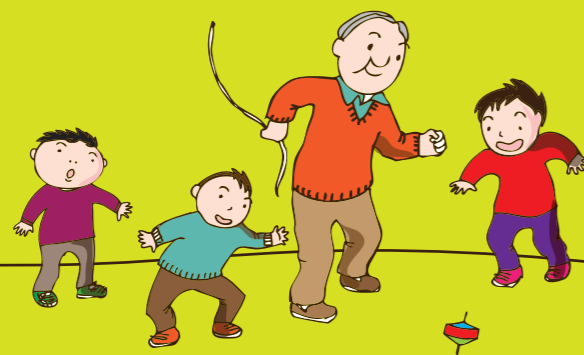


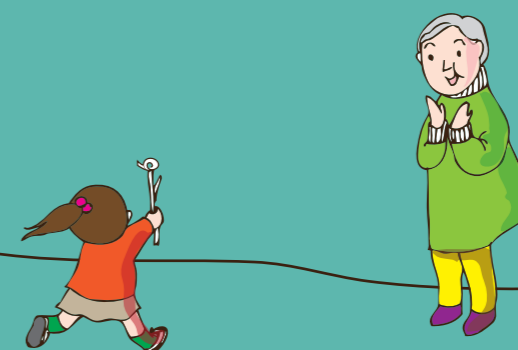
シニアボランティアのための
学校支援
スタートマニュアル

START



学校支援コーディネーターのための
シニアボランティア
を活かす
コーディネート
マニュアル

START



学校支援コーディネーターのための「シニアボランティアを活かすコーディネートマニュアル」は裏面からスタート

シニアボランティアのための「学校支援スタートマニュアル」は裏面からスタート

シニアを活かした学校支援コーディネート

団塊世代が75歳になる2025年問題など、否定的なニュアンスで語られることが多い超高齢者社会ですが、学校支援活動の担い手として、地域のシニアは貴重な戦力になっています。地域の高齢化は進んでいますが、若い世代との交流機会の参加意向に関する内閣府の調査では、6割の人が積極的に参加したいまたはできるかぎり参加したいと答えており、10年間で7ポイント以上増加しています。また、一方、シニアのボランティア活動の参加には、健康や体力面での不安、



どのような活動が行われているのか知らないといったことがボランティア活動に踏み出せない理由としてあげられています（平成26年度高齢者の日常生活に関する意識調査）。そのようなシニアに対し情報を提供し、学校支援活動など地域にある活動とマッチングさせるコーディネーターが求められています。



高齢者は元気！

高齢者に対してどんなイメージをお待ちでしょうか？

日本の高齢者の平均寿命は世界一であると同時に健康寿命と言われる、介護が必要でない、元気に自立した生活ができていた期間も世界一です。

また、文部科学省は毎年「握力」、「上体起こし」、「長座体前屈」、「開眼片足立ち」、「10m障害物歩行」、「6分間歩行」の種目を測定し、新体力テストとして調査を実施しています。その結果、図1が示すように、65歳～79歳の高齢者の体力は調査が始まった年度から、男女とも年々向上しており、年齢によっては一部低下の傾向がみられる64歳以下の成人とは違い、元気な高齢者の存在が示されています。地域にいる元気な高齢者を巻き込んで、学校支援の活動に誘ってみてはいかがでしょうか？

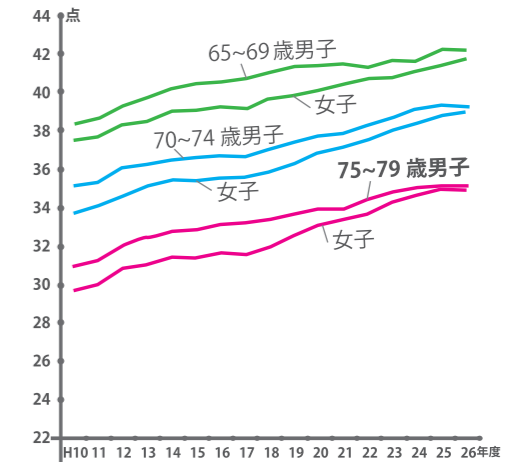


図1 新体力テストの合計点の年次推移
(文部科学省平成26年度体力・運動能力調査より)

学校支援の様々な場面

学校の様々な授業や活動で、地域住民や保護者の関わりが増えています。学校支援ボランティアと言われるこうした取り組みは、学校・家庭・地域がより一層連携して、子どもたちによりよい教育環境を提供しようという思いや、時には学校や子どもたちが抱える課題をなんとか解決しようと始まったりします。

小学校でよく見られる活動

- ・算数などの学習支援活動
- ・ミシンや調理など実習の支援
- ・農業体験やまち探検や遠足など
校外活動中の支援
- ・昔遊びを教える授業での支援
- ・英語や国際理解などの支援
- ・絵本の読み聞かせや図書室の整備
- ・花壇の手入れなど環境整備の支援

中学校でよく見られる活動

- ・職業体験、漢検や英検など
検定試験の支援
- ・受験などの面接試験の支援
- ・調理実習の支援
- ・部活動の支援

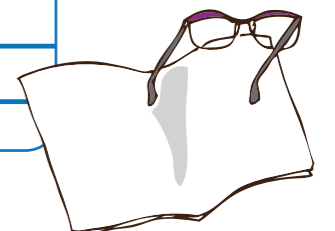


コーディネーターに必要な知識と研修

学校支援活動のコーディネーターには、様々な知識や技術が求められます。シニアボランティアの力を引き出すコーディネート活動をするには、高齢者の身体的、認知的な特徴について知っておきたい知識、そしてそうした特徴を踏まえた活動づくりが重要です。コーディネーターを対象にした研修を開催し、シニアボランティアについての理解を深めたり、学校現場でどのような工夫が必要かコーディネーター養成講座を開催するのも良いでしょう。

時間	進行	内容
60分	講義1	地域とともにある学校づくり～コーディネーターの重要性
30分	講義2	シニアの体と機能の理解
30分	講義3	記憶とコミュニケーション、認知機能の理解
30分	講義4	シニアボランティアの力を活かしたコーディネート
60分	グループワーク	シニアボランティアの力を活かした活動づくり

神奈川県横浜市青葉区、東京都町田市、福島県相馬市で実施した講座の事例より



シニアボランティアを活かした学校支援

(出典:コーディネーター必携 シニアボランティアハンドブック~シニアの力を引き出し活かす知識と技術 2016年)

学校支援の活動は、様々なきっかけで始まります。コーディネーターとして学校の活動に関わる中で、学校からの要請はもちろん、コーディネーターの目線で新しいニーズを拾い上げ、活動の企画から運営、評価までを行います。



学校支援活動の内容を決める

学校支援の活動は、学習支援から環境整備まで様々な種類があり、企画する際には、活動の内容や目的、時期や場所について十分協議する必要があります。どのような体制で実施すべきか、また対象となる学年や、ボランティアが関わる活動の場合には、その活動に必要な知識や技術は何かなども確認します。こうした活動について考える機会でも地域のシニアが関わる場合には、情報の共有方法やわかりやすい資料をつくるなどの工夫をします。

① 目的や背景について丁寧に伝える！

シニアボランティアに対して、活動の目的や設定背景について丁寧に説明しましょう。それは、ときとしてシニアの価値観とは違うことがあるかもしれません。どうしてその活動が必要なのか、またどんな課題が背景にあるのか、また将来どんな姿を目指しているのか語ることが必要です。

② 情報の共有を忘れない！

話し合いの重要ポイントは、活動に関わるメンバーすべてが共有できるようにします。会議の議事録などを必ずとり、メンバーにコピーを渡したり、メール配信したりすることで、その事柄は全員で決めたのだという認識がメンバーに生まれるように働きかけ、体制作りを臨みましょう。

③ 読みやすい資料を作る！

資料は、シニアボランティアにとって読みやすいように工夫します。たとえば、フォントサイズを大きく（12ポイント以上）します。また、必要なことは簡潔にまとめるなどして、わかりやすくします。

④ 無理しない、させない！

シニアボランティアは、一見、時間的、精神的余裕がありそうですが、他にもさまざまな活動を抱え、意外と多忙な人も多います。一人ひとりに過度な負担をかけたり、過度な期待をかけたりしないように配慮することも大事ことです。

⑤ ステレオタイプにとらわれない！

高齢者はこうだ、子どもはこうだといったステレオタイプにとらわれず、それぞれの対象者や関わる人たちにはどのような配慮が必要なのか、施設職員や教職員、専門家などの意見も聞くようにしましょう。

⑥ シニアボランティアは忙しい！

シニアボランティアにはたいてい忙しい人が多いですが、一度お願いしたことは必ず守ってくれるのも特徴です。早め早めにお願ひし、自身の予定に組み込んでもらうようお願いします。

シニアボランティアの募集と研修

活動に必要なボランティアを募集する際は、どのような経緯で応募されても、一度お会いして活動の概要やその方の希望などを必ず聞くようにしましょう。シニアボランティアの場合は、学校や子どもに接する上で十分な理解が出来ているか、活動に通う手段や、活動をする上での不安がないかなど、面談や事前研修を通じて確認します。

① わかりやすい説明を！

候補者への説明は、必ず書面を見せながら説明します。口頭の説明だけでは誤解を招く原因となります。特に強調したいところは、候補者自身に線を引いてもらうようにすれば、本人の記憶にも残りやすいでしょう。

② 無理にボランティアになってもらわない！

最終的に目標としていた人数が見つからなかったとしても、面接のなかで今回の活動には向いていないという印象を持った人を選ばないようにしましょう。ボランティアがそろわなかったら、活動やボランティアによる支援を実施しないという決断もあり得ることを忘れないでください。

③ 研修を通してトラブルを回避する

事前研修やオリエンテーションをおこなうことで、活動上の誤解やトラブルを防ぎましょう。研修が必要な理由も丁寧に説明することが大切です。

④ 難しい内容はワークショップなどで理解を

活動内容にある程度の知識や技術が求められるものの場合、数回にわたってワークショップを行うなどして理解を深めたり、メンバー間の連携を高めたりする工夫をします。

活動の運営

活動が始まった後もコーディネーターは、活動の様子を確認したり、シニアボランティアや教職員に困っていることはないか、気付いたことや意見はないか定期的に聞き取りをします。活動が体力的に負担になっていないか、継続的な活動の場合、シニアボランティアの変化を定期的に把握するようにしましょう。

① 安全な場所づくりを！

シニアボランティアにとって安全か、つまずいたりするような段差はないか、視覚的にも活動の様子が見やすい場所なのかを確認します。筋力の低下によりつま先があがりにくいなどの傾向があります。

② ボランティアへの心遣いを！

子どもたちには、シニアボランティアへの接し方を事前に伝えておきます。また、長時間の活動の場合は、途中で座ったり、休んだりできるような工夫をしたり、休憩をはさむようにします。

③ シニアボランティアに名称をつけよう！

活動内容に合わせて、「〇〇ボランティア」などと名称をつけると、子どもやシニアにも覚えやすいでしょう。

④ ルールは明確に！

ルールは明確にし、書面にして、関係者で共有しましょう。特にシニアボランティアにとっては、書面となっていることが重要です。口頭だけでは不十分だと考えてください。

⑤ 健康情報の準備と体制の整備は早めに

体調面で季節的に気をつけるべきインフルエンザ等の感染性の病気の流行情報などは、体力のないシニアボランティアには、早めに知らせるようにします。と同時に、予防接種の喚起と急なお休みのバックアップなどについても準備しておきます。

⑥ 活動や行事の機会を活用する！

シニアボランティア全員がもれなく感謝される機会のセッティングや方法を考え、準備します。子どもたちの発表会への招待や、一緒に給食を食べる食事会や、運動会、お祭りなどへの招待など、さまざまな方法があります。

⑦ 直接感謝の言葉を！

子どもたちや参加者から直接、感謝の気持ちを伝えられるような機会を用意しましょう。その際は、シニアボランティアからも何か一言、子どもたちや活動の参加者に伝えられるように準備するとよいと思います。

⑧ 活動の成果を共有する！

学校だよりなどで活動を紹介したら、必ずシニアボランティアにも渡すようにしましょう。また、学校だよりは地域で回覧されることもあります。シニアボランティアの許可のもと、学校への貢献が地域に知られることになるので、積極的に掲載されるようにしましょう。

学校ってどんなところ？

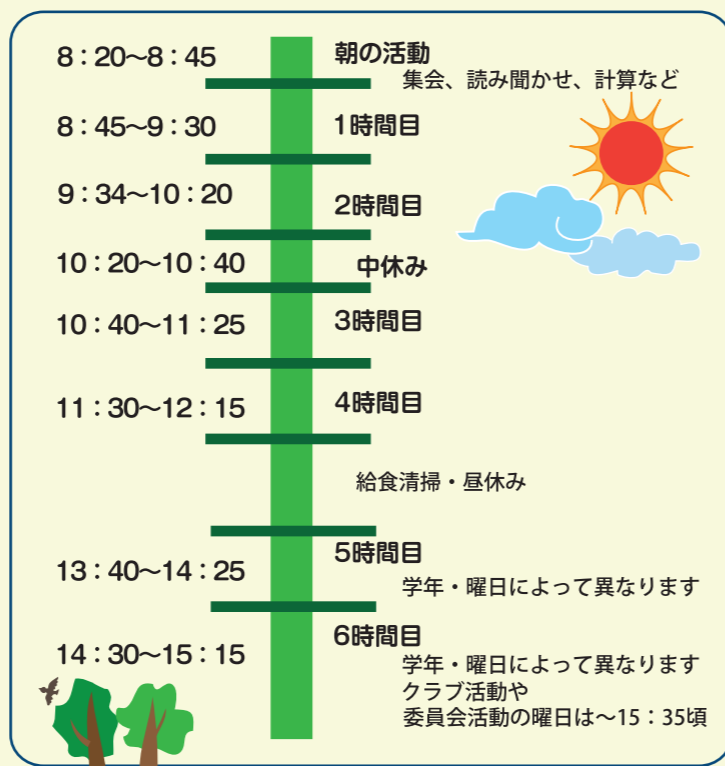
誰もが通った学校も時代とともに変化しています。

6年生の授業時間数は980時間です。現在65歳の方が小学生だった頃は1085時間程度でした。その後、週5日制への以降などにより、945時間まで減りましたが、授業時間数が近年増えており、土曜日授業がある公立学校も増えてきています。また、英語の授業が導入されたり、平成14年から始まった総合的な学習の時間では、各学校で特色ある授業が行われており、地域の方がボランティアとして学校に関わる大きなきっかけとなりました。

各教科の授業時数

区分	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
国語	306	315	245	245	175	175
社会			70	90	100	105
算数	136	175	175	175	175	175
理科			90	105	105	105
生活	102	105				
音楽	68	70	60	60	50	50
図画工作	68	70	60	60	50	50
家庭					60	55
体育	102	105	105	105	90	90
道徳	34	35	35	35	35	35
外国語活動					35	35
総合的な学習			70	70	70	70
特別活動	34	34	35	35	35	35
総授業数	850	910	945	945	945	945

小学校の時間割の例



地域の力を学校に！

子ども達も時代とともに変化しています。

近年、学校の内外で子どもを取り巻く環境は大きく変わってきています。都市化や、核家族化により、世代間の交流が減り、地域に住む人達との交流も減っています。学校では、いじめや、暴力行為が増加し、小1プロブレムと言われる小学校入学時に、教師の指示に従わなかったり、教室をうろうろしたり自分勝手な行動をする児童も増えていきます。

教育制度も変化しています。

学校と地域の連携は様々な制度によって推進されています。2004年には学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）が導入され、保護者や地域住民が学校運営に参画することが出来るようになりました。保護者や地域住民がより主体的に学校運営に携わる機会をとらして、地域の声が反映され、様々な新しい取り組みのきっかけにもなっています。2008年には、学校支援地域本部事業がスタートしました。この事業において位置づけられている地域コーディネーターは、文部科学省によると、「学校支援ボランティアに実際に活動を行ってもらうなど、学校とボランティア、あるいはボランティア間の連絡調整などを行い、学校支援地域本部の実質的な運営を担うもので、学校支援地域本部の中核的役割を担い、その成果を左右する重要な存在です。」とあります。

今、シニアボランティアが求められています！

学校支援の活動現場で、シニアボランティアが求められています。元気なシニアが学校支援に関わることによって様々な効果が期待できます。



期待できること



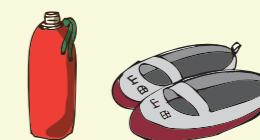
- ・学習支援による学力や授業の理解度の向上・学校や教育に対する地域の理解の促進
- ・実習や、校外活動などでの安全性の向上・授業内容の多様性や広がり
- ・見守りの目やネットワークの広がりによる子どもたちの安心安全な通学
- ・高齢者に対する尊敬や感謝の気持ちの醸成

学校でボランティアをしてみたいと思ったら



- ・自治会や町内会の回覧をチェックする
- ・学校だよりのようなものでボランティアが募集されていることがあります
- ・学校に関わっている人からの口コミ
- ・自治会、町内会の役員や、民生委員など学校に関わることがある人に聞いてみる
- ・学校や教育委員会に電話をかけてみる
- ・学校支援のボランティアを希望していることを伝え、コーディネーターがいれば紹介してもらう

シニアボランティアが学校に行くときの注意点



■ 自分が歩きやすい上履きを持参しましょう。

スリッパはすべりやすく転倒する可能性も高いので、踵のある上履きを用意します。※ただし学校で使用している上履きと同様のものは、子どもの上履きと間違える可能性があるため、自分がわかりやすいものを用意しましょう。

■ 適切な服装や身だしなみを心がけましょう。

特に冬場の校舎内の温度は低く、寒さを感じながら活動することも少なくありません。十分な防寒着を用意することが必要です。また、過度に派手な服装や香水、装飾品は児童や生徒の授業への集中を妨げる要因になり、安全面からも危険です。節度ある身だしなみや動きやすい服装を心がけるようにしましょう。

■ 時間配分には余裕を持ちましょう。

活動場所へ行く場合には、時間に余裕を持って集合時間や活動時間に着くようにしましょう。あまりに余裕を持ちすぎるのもよくありません。15分前には到着しているぐらいの時間がよいでしょう。

■ 学校内ではみんなに挨拶しましょう。

出会う教職員や児童には積極的に挨拶をしましょう。教職員は全てのボランティアを知っている訳ではありません。知らない人の場合、不審者か、地域住民なのか、ボランティアなのか判断がつかなく不安に感じます。見慣れない教職員の場合には、「〇〇ボランティアの鈴木です」など自ら名乗り出ると良いでしょう。

■ 荷物は少なく、わかりやすい場所に保管しましょう。

荷物はできるだけ少なくして、自分が活動する教室や部屋のわかりやすい場所に保管しましょう。また、忘れものをする可能性もあるので、持ち物には名前を記入したり、名札をつけたりしましょう。

■ 体調には、十分注意しましょう。

特に運動を要する活動では、血圧などに十分注意します。体調が悪いときには無理に参加せず、学校やコーディネーター、ボランティアの代表者等に連絡するようにしましょう。また、疲れた際には、遠慮なく、椅子を用意してもらって休むようにしましょう。

■ 水分補給とトイレには気をつけましょう。

学校は、乾燥しがちです。十分、水分補給ができるように、飲み物は事前に準備しましょう。トイレに行く必要がある場合は、遠慮なく使わせていただきます。最近では、学校のトイレの洋式化が進んでいます。足腰が気になる人は、洋式トイレの場所を尋ねて把握しておきましょう。

(出典：コーディネーター必携 シニアボランティアハンドブック—シニアの力を引き出し活かす知識と技術 2016年)